

教材活用シリーズ 第 174 回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

ミライにつながる生活ノート

(株)浜島書店
中学校用生活ノート
『ミライパレット』



(株)浜島書店
編集部 生活ノート担当

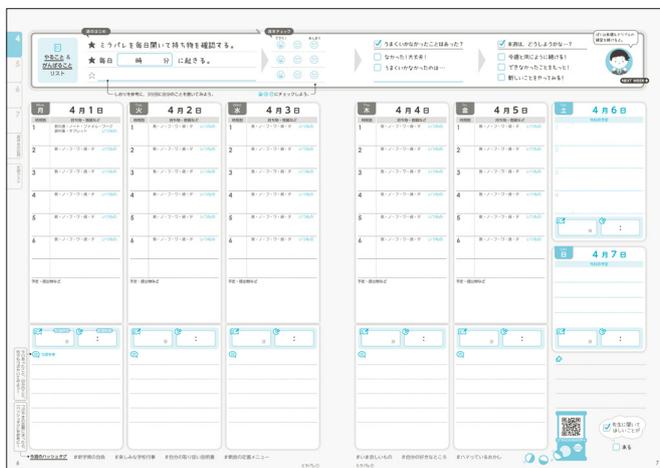
『ミライパレット』（以下…ミラパレ）は、2024年度発刊の中学校用の生活ノートです。浜島書店の生活ノートとしては2021年度発刊の『ミライパスポート（A5サイズ）』があります。ミラパレはその姉妹本になります。ミラパレは『ミライパスポート』よりも大きな判型（B5サイズ）になり、より使いやすい工夫を盛り込んだ生活ノートになりました。今年、先生方からご採用理由として一番多くお聞きしたのは「生徒が取り組みやすそうだから」というポイントでした。本稿では、現場からご支持をいただいている

「使いやすい」「取り組みやすさ」のポイントを中心に紹介します。

1. 使いやすい！がまったこだわりの誌面

生活ノートは生徒が毎日開いて使用するものです。そのため、使いやすいについては姉妹本『ミライパスポート』と同様に、徹底的にこだわりました。

毎日開く通常ページ【図1】は、記入スペースだけを白く残し、記入すべき場所がはっきりとわかるようにデザインしました。ミラパレ



▲【図1】通常ページ

直感的な使いやすさにこだわってデザインした。

は全体を通して、最小限の説明で直感的に使えるデザインを目指して設計されています。通常ページの大部分を占める時間割にも工夫を施しています。資料集やワークなど必要な持ち物に○をつけて記録する工夫は多くの生活ノートに見られる工夫ですが、ミラパレはさらに特別な持ち物が**必要ない日**に○をつける「いつもの」という項目を設けました。ご使用中の先生からも「生徒の実態に合っている」とご好評の声をいただいています。

また、ページ右下に「先生に聞いてほしいことがある」というチェック欄を設けました【図2】。これは生徒の心の変化やSOSを見

逃さないための工夫です。言葉で書くことにハードルを感じる生徒であっても、チェックするだけで先生への相談を申告できるようになっています。

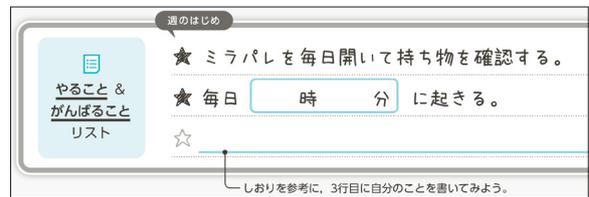


▲【図2】聞いてほしいことチェック欄
相談したい気持ちを伝えるハードルを下げている。

2. これなら書ける！無理なくできる！

現行の学習指導要領では、生徒自身が課題を設定して取り組み、それをふり返る活動が求められています。ミラパレはPDCAのエッセンスを取り入れ、「目標↓ふり返り」の習慣を身につけられるよう、通常ページに「やること&がんばることリスト」を設けました【図3・4】。まず、週のはじめに「がんばること」として目標を設定します。目標の設定が難しい生徒は、「がんばること」ではなく「やること」を記入して備忘録的に使うことができます。週の終わりには各目標についてふり返りを行うのですが、「○をつけるだけ」「選ぶだけ」のように徹底して負担感を減らし、一年生であっても「これならやれそう！」と思っただけのような構成にしました。

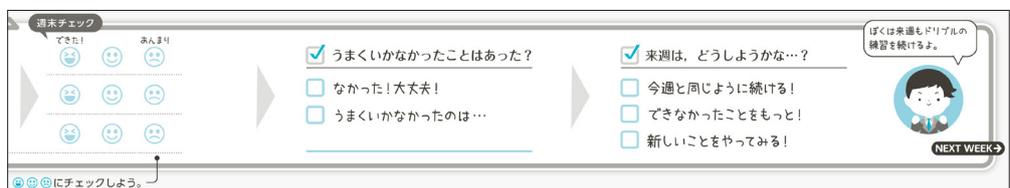
また、時間割の下の「つぶやき」欄は、生徒が日々感じたことを書いたり生徒と先生の交流に使ったりする部分です【図5】。しっか



▲【図3】週のはじめ（左側）
生徒が自由に目標を設定することもできる。

り書ける六行のコメント欄で、最下行は広くなっていて、先生のコメントを書き込むこともできます。

毎日書くとなると生徒は話題を探すのにも苦労するものです。ミラパレでは、無理なく続けられる記述量に設定すると同時に、つぶやき記入の参考になる「今週のハッシュタグ」を用いました。ご使用中の先生からは「生徒は上手にハッシュタグの話題を選んで書いている」「話題に困ったらハッシュタグを参考にしている様子です」とのお声をいただいています。



▲【図4】週末チェック（右側）
三段階の手軽な形式で、負担感なくふり返りを行うことができる。

3. 結びにかえて

生活ノートの主な機能は毎日の記録・備忘録です。しかしミラパレはそれだけにとどまらず、社会生活に必要なPDCAのエッセンスを取り込み、生徒のミライにつながる未来志向の生活ノートとして設計しています。そうした仕組みと取り組みやすさの両立にこだわるとともに、「毎日開く中学生にとって親しみやすいものを」と常に意識しながら作りました。このコンセプトは浜島書店の生活ノートシリーズを通じて考えます。書名やデザイン、ハッシュタグなどから感じ取っていただければ、編集担当としてこの上ない喜びです。

本書が充実した中学校生活の助けとなり、その名の通り、生徒一人ひとりの実現したいミライを描き出すパレットになればと願っております。



▲【図5】つぶやき欄
一番下の広いスペースに先生のコメントを記入できる。